

ありがとうを
あなたへ

2021夏 高校野球

中

学校の設備の管理を担う「公務補さん」が、野球部にとって欠かせない存在になっているのが空知地区の栗山高校だ。「指導者というよりは先輩」という不思議な距離感で、部員たちの心のよりどころになっている。

同校OBでもある伊藤幸秀さん(42)は、公務補になって19年目。草刈りや電球交換、除雪などの校内整備業務を担っている。野球経験はない。着任後、当時の監督から「人がひとり見てくれていたら安心だから」と、留守中の見守りを任せられたのが、部と関わるきっかけだった。

「顧問ってわけでもないです。顧問って心持ちとしては、いくつになってもやっぱりOBだし、子どもたちはみんな後輩です。練習はグラウンドの外で見守り、練習後は部室で部員らと過ごす。18年間野球部を見てきたので、

「公務補さん」心のよりどころ

ほっかいどう

取材した日は、昨年卒業し

① ② ③

き、今も部員の様子など情報

様子が変だとすぐ分かる」と言い、どこかをかばって走っている部員がいたら、練習後に「痛いんか」と確認する。部員が集中していないと気づけば、しばらく練習に顔を出さない。すると部員たちが屋休みに「伊藤さん、頑張るから見て来て」と、公務補の控室にそろってやってくるのだという。

古川泰弘監督(40)は「伊藤さんを頼んなきゃやれない」という。同校は規模が小さいこともあり、部長の肩書も古川監督が背負っている。4年前に着任した際には伊藤さんから部の練習方法などを聞



練習を見ながら選手の様子をメモする伊藤さん。この日のメモの一番上には選手名と「遅刻ぎりぎり。めずらしい」と書いてあった＝栗山町

栗山

校内整備 部員の見守りまで

《公務補 さまざまな支え》
公務補が野球部を支えてくれているという学校は他にも多い。

旭川東(山内智裕部長)除雪や草刈りだけでなく、大型バスの運転もしてもらっている。旭川は雪が多いが、それを毎日ブルドーザーでよけてもらう。おかげで冬もグラウンドで練習ができる。

留萌(佐々木大介部長)ネットやベンチが壊れた際には「いいよ」といつも応じてくれる。留萌の豪風雪の中でも、練習用のビニールハウスの除雪もしてくれる。

別所(歳桃浩二部長)雨風で傷んだネットの溶接など練習環境

の整備で大変助けられている。新型コロナウイルスの対策としてグラウンドに手洗い場も設置してもらった。

帯広南商(安藤尚徳部長)バッテリーマシンの修繕など、自分たちではとてもまかないきれない部分をやってもらっている。そんな公務補さんから「がんばれ」と言ってもらうのは、部員にとって独特な意味があると思う。

帯広三笠(坂田直人部長)ネットの溶接や道具の修繕。おかげで新しいものを買わず、同じものを使い続けてお金がかからずに済む。自分たちが手につけられない部分を助けてもらっていて大変ありがたい。

をやりとりしながら指導している。

副主将の田中統奏選手は兄2人も栗山の野球部だった。「きびしい人だっけ聞いてたけど、やさしい」。練習後にはストレッチを手伝ってくれ、大会前にはキーを買ってきけるのだという。

「伊藤さんがグラウンドをいつも整備してくれるから練習もできるし、感謝してる。試合では長打を打ってかっこいい姿を見せたい」(川村さくら)